

沖縄科学技術大学院大学とみずほ銀行との 「連携推進に関する覚書」の締結について

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園(学長兼理事長:カリン・マルキデス、以下「OIST」)と株式会社みずほ銀行(頭取:加藤 勝彦、以下「みずほ銀行」)は、本日、オープンイノベーションの創出に向け、「連携推進に関する覚書」(以下「本覚書」)を締結しました。

1. 本覚書における連携内容

- (1) OIST 発イノベーション企業の成長支援に関すること
- (2) 教職員や学生を含む OIST コミュニティに対する起業家教育に関すること
- (3) その他両者の利益に資する関連事項

2. 本覚書締結の背景と目的

OIST は、世界最高水準の研究拠点を形成し、沖縄の技術移転と産業革新を牽引する知的クラスターの形成を図ることを目的として、2011 年に日本政府によって設立されました。理工学分野の5年一貫制博士課程を置く大学院大学で、世界80の国と地域から研究者や学生が集まり、科学分野の垣根を越えて協力することで、創造的で革新的な発見や課題解決につながる取り組みを行っています。さらに、産業界との連携や起業支援を通じて、沖縄および日本の経済成長を加速させ、世界の優秀な起業家を沖縄に惹きつけて多様な産業を創出し、イノベーションの拠点を形成することをめざしています。

みずほ銀行は、グループ共通のパーパス「ともに挑む。ともに実る。」のもと、グループのネットワーク、金融サービス提供力、コンサルティング力を活用し、会員企業4,000社を超えるアクセラレーション会員サービス「M's Salon」の運営など、10年以上にわたり、イノベーション企業の発展を多角的に支援するエコシステム構築に取り組んでいます。また沖縄においては、1898年に発足した地元資本による初の金融機関、沖縄県農工銀行をルーツに支店を運営するほか、沖縄懇話会や沖縄未来創造協議会の本土側幹事として、県内の金融機関や経済団体等と連携し、沖縄経済振興の議論や取り組みに参画しています。

今般、OIST とみずほ銀行は、OIST の知的クラスターが創造する卓越した研究成果や技術開発と、みずほ銀行のイノベーション企業エコシステムの枠組みを連動し、オープンイノベーションによる社会課題解決への取り組みや、沖縄発イノベーション企業の成長と沖縄での新産業創出をともにめざし、本覚書を締結することに合意しました。

以上